

令和8年度 大原小学校 学校経営計画

I 教育目標

考える子 きたえる子 思いやる子

II 本校が目指す姿

児童の実態	強み	弱み
明るく素直	学年間や個性の違いを超えて交流する力。	自己肯定感が低い児童が一定数いる。
協力的な行動	命の大切さを意識した行動ができる。	主体性や表現力に欠ける場合がある。
地域との調和	地域との信頼関係が学校活動を支える。	気持ちや意見を表現することが難しい児童がいる。

目指す児童像

考える子

- ・主体的に課題を捉え、自ら学び行動する力を育成する。
- ・知識の習得とともに、それを活用して問題を解決する力を育む。
- ・対話を通じた深い思考力を身につけ、社会で必要とされる表現力を強化する。

きたえる子：「健やかな心と体」を育成し、生活習慣を充実させる。

- ・日々の運動や清掃活動を通じて、健やかな心と身体を育む。
- ・健康的な生活習慣を学び、持久力や協調性を高める。
- ・防災教育や健康教育により、安全に対する意識を確立する。

思いやる子：「感謝の心」や「他者への配慮」を育む。

- ・日常生活や行事を通じ、感謝の心や多様性への配慮を大切にする。
- ・あいさつやマナーを重視し、他者との良好な関係を構築する習慣を育てる。
- ・人の痛みを理解し、思いやりある行動ができる子どもを目指す。

III 目指す学校像

1 努力し合い学び合う学校

児童が夢や目標に向かい挑戦する場を提供。

2 明るい挨拶と温かい信頼関係があふれる学校

笑顔があふれ、児童が安心して過ごせる環境の構築。

3 学びを実感し成長する学校

学ぶ喜びを感じられる工夫。

4 地域と共に歩む学校

学校・家庭・地域が一体となって児童を支える運営。

IV 経営の重点と具体的施策

1 PDCA サイクルの活用

目的：教育活動をより効果的に行うため、計画(P)・実行(D)・評価(C)・改善(A)の流れを確立し、透明性と柔軟性を意識した運営を行う。

具体策

- ・学期ごとに経営成果を振り返ることで、次年度に向けた改善計画を具体化する。

- ・行事や日々の活動を振り返り、課題に応じた具体的計画を共有し実施する。
- ・職員全体での情報共有を行い、統一した指導方針と支援体制を確立する。

2 確かな学力の育成

目的：創造的思考力や主体性を持つ子どもを育てるため、学力のみならず、その成果を実感できる教育を目指す。

具体策

- ・全国・県学調の分析結果を活用した指導内容の見直しを行う。
- ・「確かな学力育成プラン」を学校全体で推進し、定期的に進捗確認を行う。
- ・スマイルプリントや朝学習を活用し、児童の「できた」を実感する場を設ける。

3 復興教育・キャリア教育・先人教育

目的：地域の歴史や震災の教訓を学び、子どもたちの未来への意識を育む。

具体策

- ・防災教育を充実し、命の大切さを伝える。
- ・地域の偉人や資源を活用し、郷土学習を推進する。
- ・キャリアパスポートを通じ成長実感を促し、進路に対する意識を高める。

4 地域との協働

目的：家庭・地域との連携を強化し、児童の成長を支える。

具体策

- ・地域の人材や施設を活用した授業や体験活動を展開し、学びの幅を広げる。
- ・地域団体や社会教育事業（放課後子ども教室等）と連携した教育活動を行う。
- ・保護者向け学習プログラムや講習会を通じて家庭の教育力向上を図る。

5 ICT活用による学習の個別最適化の推進

目的：時代の変化に対応した効率的学習環境を整備する。

具体策

- ・授業内外でのタブレット利用を促進し、ICTを活用した授業デザインを研究する。
- ・ICTサポーターとの連携による研修や指導支援を実施する。
- ・教職員のICTスキル向上を進めるため、長期休暇中等に研修を実施する。

6 健康・安全教育と「60プラスプロジェクト」

目的：児童の生活リズムを整え、健康的な生活を実践する。

具体策

- ・「60プラスプロジェクト」に基づく運動・健康習慣を促進する。
- ・歩いての登校や運動週間を設置し、健康的な生活習慣を育てる。
- ・食育の実践を通じ、子どもたちの食事バランスの体得を促す。
- ・避難訓練や情報モラル教育を通じて、命を守る力を育成する。

7 いじめ防止と不登校未然防止

目的：児童が安心して通える学校を実現する。

具体策

- ・定期的なアンケートや面談を通じ、情報把握と児童支援の迅速化を図る。
- ・職員間の情報共有を徹底し、児童の居場所を作る。

8 小中連携と特別支援教育の推進

目的：学びの継続性を確保し、多様な教育環境を提供する。

具体策

- ・保幼小連携や小中連携を進め、カリキュラムや支援計画の一貫性を確保する。
- ・特別支援学級では児童一人ひとりの特性に応じた指導を実施する。
- ・外部講師の積極活用や専門家との連携を強化する。